

田中邦夫教授 略歴・業績目録

I 略 歴

1943年10月19日 旧満州国錦州に生まれる。

学歴

- 1968年3月 大阪市立大学文学部国語国文学専攻卒業
- 1972年3月 大阪市立大学大学院文学研究科修士課程修了（文学修士）
- 1975年3月 大阪市立大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学

職歴

- 1975年4月 大阪経済大学教養部専任講師
- 1980年7月 大阪経済大学教養部助教授
- 1986年12月 大阪経済大学教養部教授
- 1988年4月 関西大学文学部非常勤講師（1988年9月まで）
- 1990年4月 神戸女子大学文学部非常勤講師（1992年3月まで）
- 1993年4月 大阪市立大学文学部非常勤講師（1994年3月まで）
- 1994年4月 武庫川女子大学文学部非常勤講師（1995年3月まで）
- 1997年4月 大阪経済大学教養部長（1999年3月まで）
- 2001年5月 大阪経済大学図書館長（2003年4月まで）
- 2002年4月 大阪経済大学人間科学部教授

所属学会

- 日本近世文学会（1973年6月～1997年3月）
- 日本近代文学会（1984年6月～現在に至る）
- * 日本近代文学会関西支部幹事（2002年4月～2004年3月）
- 日本社会文学会（1985年5月～現在に至る）
- * 日本社会文学会理事（2005年4月～2007年3月）

II 業 績 目 録

【著書】

1. 『二葉亭四迷『浮雲』の成立』双文社出版 1998年2月
2. 『漱石『明暗』の漢詩』翰林書房 2010年7月

【単行本収載論文】

1. 「二葉亭四迷——『浮雲』とロシア文学——」（愛知女子短期大学附属東海地域文化研究所編『東海地域文化の諸問題』不二出版）1994年3月
2. 「浮遊する目覚めた青年達——『浮雲』『楚囚之詩』『舞姫』——」（西島孜哉篇『日本文学の男性像』世界思想社）1994年5月
3. 「『浮雲』第一・二編の語り手」（『大阪市立大学文学部50周年記念国語国文学論集』和泉書院）1999年6月
4. 「『道草』の語り手」（玉井敬之編『漱石から漱石へ』翰林書房）2000年3月
5. 「津田の「夢」——清子との邂逅——」（鳥井正晴監修近代部会編『「明暗」論集 清子のいる風景』和泉書院）2007年8月

【論文】

1. 「近世初期における「好色」の位置——西鶴好色本と『色道大鏡』の世界——」（『文学批評』6号（大阪市立大学文学論研究会）1974年11月
2. 「『武道伝来記』の構造（上）」『大阪経大論集』109号 1976年3月
3. 「『武道伝来記』の構造（下）」『大阪経大論集』114号 1976年11月
4. 「西鶴の武士道観——『武家義理物語』の序文について——」（『大阪経大論集』127号 1979年3月
5. 「『武家義理物語』に描かれた「義理」——中国説話を原拠とする話を通して——」（『大阪経大論集』129号 1979年5月
6. 「『武家義理物語』に現われた西鶴の町人思考——「我物ゆへに裸川」（1ノ1）と「約束は雪の朝食」（3ノ2）を通して」（『大阪経大論集』134号 1980年3月
7. 「『浮雲』の主題について——文三の思想と自由民権運動——」（『大阪経大論集』143号 1981年9月
8. 「二葉亭の「正直」と自由民権運動——『浮雲』時代における二葉亭の思想——」（『大阪経大論集』145号 1982年3月
9. 「二葉亭の懊悩——「正直」の崩壊とスペンサー哲学・コントの人間教——」（『大阪経大論集』154号 1983年7月
10. 「二葉亭の「社会主義」——『浮雲』執筆以前——」（『大阪経済大学教養部紀要』1号 1983年12月
11. 「二葉亭の「正直」の崩壊と儒教的教養」（『大阪経大論集』158号 1984年3月
12. 「二葉亭の理想「正直」とロシア文学」（『大阪経大論集』159号 1984年6月
13. 「『武家義理物語』と『見ぬ世の友』——西鶴の典拠利用の方法——」（『大阪経大論集』164号 1985年3月
14. 「『浮雲』における理想と現実——文三の「弱さ」について」（『近代文学研究』3号（日本文学協会近代部会）1986年9月
15. 「二葉亭と下層社会」（『近代文学研究』5号（日本文学協会近代部会）1988年8月

16. 「『浮雲』におけるゴンチャロフ『断崖』の利用」『大阪経大論集』186号 1988年12月
17. 「『浮雲』におけるツルゲーネフ『めぐりあひ』の利用——写実の創始について——」『大阪経大論集』42巻5号 1992年3月
18. 「『浮雲』におけるツルゲーネフ『ベージンの野』『あひびき』の利用——その自然描写の利用の仕方について——」『大阪経大論集』42巻6号 1992年4月
19. 「『浮雲』とドストエフスキー『罪と罰』第一部」『大阪経大論集』43巻6号 1993年3月
20. 「『浮雲』第九・十回における『罪と罰』の利用」『大阪経大論集』45巻6号 1995年3月
21. 「『浮雲』の完結（一）」『大阪経大論集』46巻6号 1996年3月
22. 「『浮雲』の完結（二）」『大阪経大論集』47巻5号 1997年1月
23. 「『明暗』と漢詩の「自然」」『大阪経済大学教養部紀要』18号 2000年12月
24. 「『明暗』における「自然物」と「西洋洗濯屋の風景」——禅的世界観と漱石の『明暗』執筆態度との繋がり——」『大阪経大論集』52巻4号 2001年11月
25. 「『明暗』における清子の形象——『十牛図』『碧巖録』および漱石詩との関係」『大阪経大論集』52巻6号 2002年3月
26. 「『明暗』（フランス料理店の場面）と構想メモとしての五言絶句——作者漱石の視点と小林・津田の形象——」『大阪経大論集』53巻5号 2003年1月
27. 「『明暗』における小林の造型と七言律詩——『明暗』の創作方法——」『大阪経大論集』53巻6号 2003年3月
28. 「『明暗』（小林が津田から金を強請る場面）と漢詩の関係」『大阪経大論集』54巻5号 2004年1月
29. 「『明暗』における漱石創作意識の現場——「吉川夫人と津田の対話場面」と漢詩——」『大阪経大論集』55巻6号 2005年3月
30. 「『明暗』における「愛の戦争」場面（前半）と漱石詩——作者漱石の創作時の思い——」『近代文学研究』23号（日本文学協会近代部会）2006年3月
31. 「『明暗』における『愛の戦争』（後半）——漢詩との繋がり——」『大阪経大論集』56巻6号 2006年3月
32. 「『明暗』執筆と漢詩創作——「堀家でのお延とお秀の戦争」〈一二八回から一三〇回の場合——〉」『近代文学研究』24号（日本文学協会近代部会）2007年1月
33. 「『明暗』と漢詩の繋がり——病室での津田・お秀・お延の会話場面——」『大阪経大論集』59巻3号 2008年9月
34. 「『明暗』期漢詩の表層と深層——最初の詩群について——」『大阪経大論集』59巻6号 2009年3月
35. 「『明暗』期漢詩の言葉（上）」『大阪経大論集』60巻3号 2009年9月

【研究ノート】

1. 「『浮雲』は中絶しているか」「葦の葉」119号（日本文学協会近代部会誌）1992年12月（『近代文学研究』10号に再録）
2. 「漱石の「俗了された心持」と漢詩創作」「葦の葉」232号（日本文学協会近代部会誌）2003年6月（『近代文学研究』21号に再録）
3. 「『明暗』執筆と漢詩創作の日付の関係」『会報漱石文学研究』創刊号（漱石詩を読む会）2005年6月
4. 「漱石詩「我面難親向鏡親」（大正五年十月二十一日）——漱石の悟道意識と『明暗』執筆意識——」『会報漱石文学研究』2号 2005年11月
5. 「漱石詩「擬将蝶夢誘吟魂」（大正五年九月二四日）と『明暗』の関係」『会報漱石文学研究』3号 2006年7月
6. 「『明暗』期における漱石詩の構造——大正五年八月一六日の詩「無心礼仏見靈台」を例として——」『会報漱石文学研究』4号 2007年8月
7. 「『明暗』構想の原型——水墨画「花開水自流図」と湯河原」『会報漱石文学研究』5号 2008年4月

【学会発表】

1. 「『武家義理物語』の中国説話」日本近世文学会秋季大会（於皇學館大学）1979年11月
2. 「『浮雲』の主人公文三の武士的気概」日本近代文学会関西支部春季大会（於相愛大学）1986年6月
3. 「文三の理想と武士的気質」日本近代文学会関西支部秋季大会——「シンポジウム『浮雲』をめぐる——」（於大谷女子大学）1987年11月（『国文学解釈と鑑賞』第54巻第11号（1989年11月）に掲載）
4. 「『浮雲』とドストエフスキー『罪と罰』」日本近代文学会秋季大会（於同志社大学）1989年10月
5. 「二葉亭とロシア文学」日本社会文学会国際交流名古屋大会（於愛知女子短期大学）1991年12月（『東海地域文化研究』3号（東海地域文化研究所1992年6月）に掲載）
6. 「『明暗』における小林と作者漱石の関係——フランス料理店の場面（百五十五～百六十七章）」阪神近代文学会（於山手女子短期大学）2002年7月
7. 「二葉亭『浮雲』と漱石『明暗』のリアリズム」日本社会文学会秋季大会（於同志社大学）2006年11月

【書評】

1. 「深江浩著『漱石の20世紀』」『季報唯物論研究』16巻冬59号 1997年1月
2. 「槇林滉二著『明治初期文学の展開——後退戦の経絡——』（『槇林滉二著作集』第2巻）」『芸術至上主義文芸』27巻 2001年11月

【紹介】

1. 「岩淵宏子・北田幸恵・高良留美子編『フェミニズム批評への招待——近代女性文学を読む』(学術書林)』『社会文学』10号 1996年7月
2. 「紹介「鎌倉漱石の會」発行『中国語で聴く夏目漱石漢詩選』』『阪神近代文学研究』8号(阪神近代文学会)2007年6月

【辞書の項目】

「中江兆民」『明治大正昭和作家研究大事典』桜楓社 1992年9月

【その他】

「二葉亭四迷の『浮雲』とロシア文学」中日新聞1991年11月26日(夕刊)
 「2003年春季大会印象記」『日本近代文学会関西支部会報』7号 2003年8月
 大阪市大学開放講座(大阪経済大学市民教養講座)「日本近代化・欧米化とナショナリズム(1)——日本近代文学成立の周辺・『浮雲』など——」2000年5月13日「日本近代化・欧米化とナショナリズム(2)——夏目漱石の西洋と東洋——」2000年5月20日